MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ミステリ読書案内

2019. 12. 2　発行元

第２号　伊藤　剛

MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

E・S・ガードナーベスト表

海外のミステリも紹介していこう。一人目は、私が外国人作家の中で一番数多く読んでいるＥ・Ｓ・ガードナー。「法廷もの」に分類されることが多い。でも、裁判場面以外の部分でも見所は多いストーリー・テーラー。

日本語訳は150冊くらい

アール・スタンリ・ガードナーは、『弁護士ペリー・メイスン・シリーズ』でお馴染みの、アメリカの大人気作家。外国人作家の中ではとりわけ作品数が多い。生涯の作品は９００作とか言われているが……。日本語訳の本になったものは１５０冊ぐらいではないかと推察される。

私は、そのうちの１２０冊を読んでいる。手に入りにくいものが数冊あるので、それを除けば、主なものを読んでいると思う。よって、右のベスト表もある程度の信頼度はあるのではないだろうか。

『ビロードの爪』からスタート

ペリー・メイスン・シリーズの第１作目は『ビロードの爪』。１９３３年の作。エラリー・クイーンの『Ｙの悲劇』が出版された年と同じ年と考えると、その発想の斬新さと歴史的な価値が見えてくるのではないかと思う。

弁護士ペリー・メイスンと秘書のデラ・ストリート等が、数々の窮地を乗り越える話は、緊迫感たっぷりで、最後に待ち受ける、胸がすく結末も期待通りである。

私が大学生の頃は、ハヤカワ・ポケット・ミステリ版が多かったが、現在は創元推理文庫やハヤカワ・ミステリ文庫で読めるものが多いはずだ。

たくさんのシリーズもの…

ペリー・メイスンもいいけれど、私はＡ・Ａ・フェア名義の「バーサ・クール＆ドナルド・ラム」シリーズが好きだ。二人の軽妙な会話と、騙し騙されのコンゲームとしての駆け引きが特に面白い。

他にも『検事燭をかかぐ』などの検事ダグラス・セルビイ・シリーズや、『レスター・リースの冒険』の義賊もの等、たくさんの作品があり、いずれも高レベルの出来。“法廷物”の出発点を学ぶミステリ作品として、最適である。

海外ミステリ この1冊・連載1　E・D・ビガーズ『チャーリー・チャンの活躍』

外国の作家は、広い紙面を使った特集を組みにくい。そこで、「この１冊」という形で取り上げてみることにした。最初の１冊は、アール・デル・ビガーズの『チャーリー・チャンの活躍』。私が大学生になって、ミステリを読み始めた最初の頃に楽しく読んだ本。

１９３０年の作品。ホノルル警察の中国人探偵チャーリー・チャンを主人公にしたシリーズの一作。私が持っているのは創元推理文庫版。世界一周の観光船の中での殺人事件。ロンドン、パリ、イタリアと事件は続き、やがて、解決はチャンの手に委ねられる。ユーモアに溢れ、ロマンチックなストーリーで、「ミステリにも、こんな楽しいものもあるのだ」と教えてくれた一冊。未熟だった若い頃の私をミステリの世界に引き込んでくれた作品。創元推理文庫には、もう一冊『チャーリー・チャンの追跡』が入っている。今、入手可能なのだろうか？

《Ｅ・Ｓ・ガードナー作品ベスト表》

１．義眼殺人事件
２．夢遊病者の姪
３．どもりの主教
４．奇妙な花嫁
５．幸運な足の娘
６．これは殺しだ
７．管理人の飼猫
８．すねた娘
９．片眼の証人
１０．びっこのカナリア
１１．ビロードの爪
１２．ぬれ手で粟（Ａ）
１３．怪しい花嫁
１４．美しい乞食
１５．馬鹿者は金曜日に死ぬ（Ａ）
１６．吠える犬
１７．待ち伏せていた狼
１８．脅迫された継娘
１９．屠所の羊（Ａ）
２０．放浪処女事件
２１．ためらう女
２２．カウント９（Ａ）
２３．落ちつかぬ赤毛
２４．コウモリは夕方に飛ぶ（Ａ）
２５．気ままな女
２６．大当たりを当てろ（Ａ）
２７．レスター・リースの新冒険（短）
２８．スリップに気をつけて（Ａ）
２９．孤独な女相続人
３０．ラム君奮闘す（Ａ）
３１．おめかけはやめられない（Ａ）
３２．危険な未亡人
３３．黄金の煉瓦（Ａ）
３４．光る指先
３５．梟はまばたきしない（Ａ）
３６．女は待たぬ（Ａ）
３７．ころがるダイス
３８．レスター・リースの冒険（短）
３９．火中の栗（Ａ）
４０．カラスは数を数えない（Ａ）

（Ａ）印は、Ａ・Ａ・フェア名義の、バーサ・クール＆ドナルド・ラム・シリーズ。このベスト４０の中に『検事シリーズ』は入らなかった。短編集は全部で４冊ある。ペリー・メイスン・シリーズは、全部で８２冊ある。